

富士紀行（11） 総合火力演習（総火演）

富士山の位階を皆さんは承知だろうか？

仁寿3年（853）7月5日付で「駿河国浅間神」は「名神」即ち特別な待遇に預かるように選ばれた神として認定された。更にその8日後には浅間大神が従3位に叙せられている。5位が貴族と言われ、4・5位は昇殿を許され殿上人と称された。3位以上は公卿と呼ばれたので、富士山は非常に高い地位に除せられたことになる。6年後には正3位に加叙された。

音楽祭り、自衛隊記念日中央観閲式（または観艦式、航空観閲式）と並ぶ自衛隊の一大イベントに総合火力演習（略称：総火演）がある。

● 総火演の歴史と現況

この演習は、陸上自衛隊各学校の学生に対して普通科・特科・機甲科等の火力の効果と現代戦における火力戦闘様相を認識させる目的を持って昭和36年に開始された。当初は総合展示演習と称した。

昭和41年の第9回（年度に2回実施が基本）以降、学生教育（教育演習）にあわせて国民の皆様にも自衛隊に対する理解と認識を深めて貰う目的を持って一般公開（公開演習）を始めた。昭和47年度の第15回からは「総合火力演習」と改称され、現在に至っている。昭和54年度に一回のみ中止されている。

平成12年度で42回を数える。特に平成12年度は、陸上自衛隊が創隊されて50年という節目であることに鑑み、それを記念した演習としている。公開演習は9月9日及び10日である。

演習を通じ、陸上防衛という陸上自衛隊の本来任務を踏まえ、訓練精到な部隊・隊員の真姿を理解して貰うべく努めている。

● 演習の概要

演習は富士学校長を担任官とし、富士教導団を主力として、各方面隊や長官直轄部隊等の支援を得て東富士演習場畑岡地区で実施される。

時期としては、一般的には9月上旬の下旬と見て貰えばいい。

陸上自衛隊が装備する、戦車、野戦砲、対戦車ミサイル、迫撃砲、ロケットシステム、各種のヘリコプター等があるシナリオの下に運用して、各種火器等の威力や陸上自衛隊の戦闘行動の一端を理解容易なように構成されている。弾薬何トン何億円とか言う数値はマスコミの得意とするところであり、そちらで確認して頂きたい。

腹にズシーンと響く砲弾落下や戦車砲の射撃を身近で確認し、演習実施部隊の射撃精度や隊員のきびきびした動作を見て頂きたい。

● 見学者数

教育及び公開演習の研修者は今までの最高が109,000名、平成11年度で、97,700名であった。入場券は一般公募されるが、異常なほどの人気があるとか。